

東京アマデウス合唱団 第40回定期演奏会

レオンハルト・レヒナー
Leonhard Lechner

我らが唯一の贖い主にして救い主なる
イエス・キリストの受難と苦悩の物語

2022年10月9日(日)18:00開演

同仁キリスト教会礼拝堂

Tokyo Amadeus Chorus

プログラム

Leonhard Lechner (1553-1606)

レオンハルト・レヒナー

CHORBUCH LEONHARD LECHNER - Mein süße Freud auf Erden -

レオンハルト・レヒナー合唱曲集 《地上の我が甘き喜び》 より

1. Christ ist erstanden
2. Christ, der du bist der helle Tag
3. Dieweil Gott ist mein Zuversicht
4. Wenn wir in höchsten Nöten sein
5. Allein zu dir, Herr Jesu Christ

～ 休憩 ～

**Historia der Passion und Leidens
unsers einigen Erlösers und Seligmachers Jesu Christi**

我らが唯一の贖い主にして救い主なるイエス・キリストの受難と苦悩の物語
(ヨハネ受難曲)

(選曲 辻村 順子)



ご挨拶

本日はお忙しい中ご来場くださり、誠にありがとうございます。

1981年の第1回から始まった東京アマデウス合唱団の演奏会も、本日第40回を迎えます。この間には、多くの団員の出入りがあり、合唱活動を支えてくださった指導者や共演者、応援して下さる方々の存在がありました。創立時から今まで、困難もありましたが、いつも多くの皆様の支えと応援、団員の努力があって今日を迎えることができますことに、深く感謝申し上げます。

本日は、16世紀後半ルネサンス期のドイツの作曲家、レオンハルト・レヒナーの作品を演奏いたします。後半のステージで取り上げます受難曲は、ドイツ語に依るモテット風受難曲の傑作と言われ、後世の作曲家に手本とされたそうです。

当団では、この受難曲を2006年の第25回演奏会に於いてオルガン付きで演奏しましたが、今回は楽譜通り無伴奏で演奏いたします。

なお、プログラムに載せております受難曲の対訳と解説文は、第25回演奏会の際、当時団員だった野口碩さんが書かれたものを再掲しました。野口さんはキリスト教に造詣が深く、当団演奏会でも多くの対訳や解説文を残しています。

この美しくも壮大な曲を歌うために、発声や表現の仕方などを、水野先生の緻密で妥協のないご指導のもと練習を重ねて参りました。本日は、その成果が実ることを願っております。

大バッハが生まれる100年も前に作られた作品の素晴らしさを、少しでもお伝えする事ができましたなら幸いです。

最後までごゆっくりお楽しみください。

東京アマデウス合唱団
団長 大久保 ルミ子

プロフィール

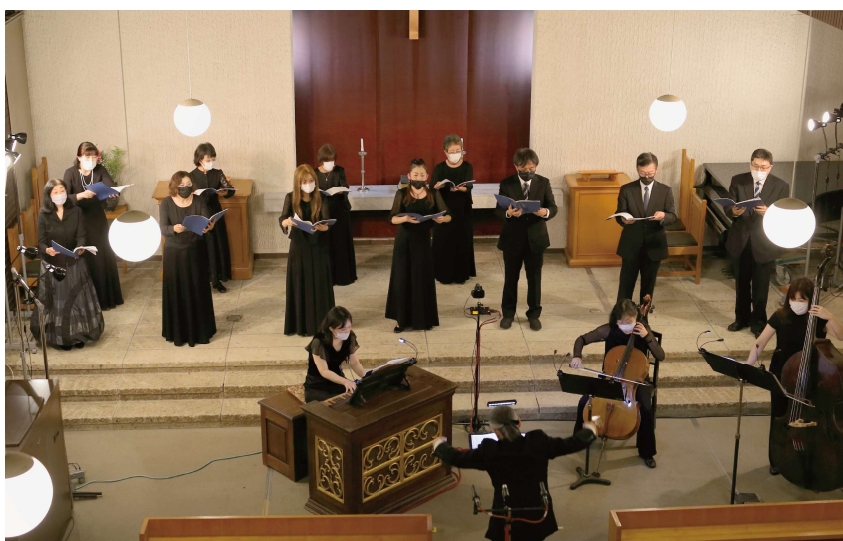
指揮 水野 克彦



東京藝術大学卒業。クラリネット専攻。在学中は藝大バッハ・カンタータ・クラブに在籍し、小林道夫氏の薫陶のもとにバッハの教会音楽作品を研究した。卒業後はクラリネット奏者としてオーケストラ、室内楽等の演奏にたずさわったが、しだいに十代の頃から親しんできた合唱音楽や教会音楽へ傾倒するようになり、ピアノ伴奏者および通奏低音奏者としてこの分野に参加することが多くなった。現在は指揮者としてアマチュア合唱団の指導に力を注ぎ、オルガン演奏もライフワークとして取り組んでいる。

日本オルガニスト協会会員。日本オルガン研究会会員。茗荷谷キリスト教会オルガニスト。

東京アマデウス合唱団



1980年にモーツァルトのレクイエムを歌う目的で結成。2000年頃よりドイツ・ルネサンス、バロック時代を中心とした宗教曲を少人数で演奏する方向へと活動方針を転換。緻密なアンサンブルと豊かな音楽表現を目指して努力しています。

ソプラノ	辻村 順子	中西亜紀子	平石 幸枝		
アルト	大久保ルミ子	大友 美佐	佐藤由紀子	濱野美保子	堀江 和子
テノール	寺尾 敏康				
バス	椎野 隆志	中西 宏年	中村 直利		

プログラム・ノート

辻村 順子

レヒナーのヨハネ受難曲は30年近く前から楽譜を持っており、2006年の当団第25回定期演奏会で初めて演奏しました。今回の演奏会のための選曲中、ふと思いついて16年ぶりに再演することにしました。機会があればまた歌ってみたいと思っていた曲です。作曲者のレヒナーは優秀なテノール歌手でしたので、楽譜のテノールパートに高音が頻繁に登場します。本日はテノール1人で演奏します。練習の成果をお聴きください。

『ヨハネ受難曲』は、レヒナーの他にもクリストフ・デマンツィウス、ハインリッヒ・シュッツ、J. S. バッハ、G. A. ホミールウス、アルヴォ・ペルト等、数多くの作曲家が作品を書いています。編成も様々です。レヒナーの曲は4声で少人数の当団に丁度良いと思えました。前はオルガンの助けを借りましたが、今回は本来の無伴奏で演奏します。

合唱曲集は2019年7月にベルリン市内で、電車の乗り換えのため歩いていた折に偶然目に入った大きな楽譜店で見つけました。同行の夫を長時間待たせながら、楽譜棚を端から端までチェックして仕入れた数冊の楽譜の中の1冊です。今までドイツで色々楽譜探しをするのも楽しみでしたが、コロナ禍で近年訪問が叶わず残念です。

ヨハネ受難曲については別掲の解説を参考にさせていただくことにして、ここでは合唱曲集について簡単に説明いたします。この合唱曲集は、編集者がレヒナーの複数の合唱曲集から選んだ曲を、コラール編曲、讃美歌とモテット、世俗曲、リートモテット、旧約聖書の詩編と箴言(しんげん)に基づく通作モテットの5つに分類し、それぞれ3曲ずつ選んでいます。今回はその中からコラール編曲2曲、讃美歌とモテット1曲、リートモテット2曲の計5曲(全て4声・ドイツ語)を演奏します。

1. Christ ist erstanden キリストは復活した

aus „Newe Teutsche Lieder / mit vier und fünff Stimmen“ 1577

Text: Bayen/Österreich 12-15. Jh.

復活節コラールの第1節のみに作曲されている

2. Christ, der du bist der helle Tag

キリストよ、明るい昼間であるあなたよ

aus „Newe Teutsche Lieder / mit vier und fünff Stimmen“ 1577

Text: Erasmus Alber(um 1500-1553)

コラールの7つの詩節に対応した7つの部分からなる規模の大きな作品

3. Dieweil Gott ist mein Zuversicht 神が我が確信なので

aus Neue Geistliche und Weltliche Teutsche Lieder

/ mit fünff und vier Stimmen“ 1589

Text: 1596 bei Andreas Osiander(1562-1617)

上記の曲集の中の8つの宗教的楽曲からの1曲で、有節歌曲

4. Wenn wir in höchsten Nöten sein

私たちが苦しみの極みにあるとき

aus „Newe Teutsche Lieder / mit vier und fünff Stimmen“ 1577

Text: Paul Eber(1511-1569) 1566

上記の曲集の中の16曲中の1曲。7節ある歌詞のうちの2つの節だけに曲をつけた

5. Allein zu dir, Herr Jesu Christ

ただあなたのみが、イエス・キリストよ

aus „Newe Teutsche Lieder / mit vier und fünff Stimmen“ 1582

Text: Paul Dulner(um1530-1596)

2つの部分からなるリートモテット

ヨハネ受難曲 解説

第25回定期演奏会プログラム(再掲)

野口 碩

『私たちのいく人かの救い主であり、至福を与え下さる方イエス・キリストの御受難とお苦しみのお物語』

(Historia der Passion und Leidens unsers einigen Erlösers und Seligmachers Jesu Christi BA2968『レヒナー作品集第12』所収)

ドイツのルネサンス期の作曲家レオンハルト・レヒナー(c.1553-1606.9.6)は、その伝記については不明な点が多い。出身地はスイスの南チロルと推定されているが、それは彼が署名に姓をAthesinusと書くからであった。しかし、父母がその地方の出身であったとしても彼がそこで生まれたという確証はない。1570年にはバイエルン公の宮廷礼拝堂付聖歌隊の少年歌手に成っていた。はっきりしているのは1575年からで、ニュルンベルクの聖ローレンツ学園の助教師として登録されており、同時に《聖モテット集 Motectae sacrae 1575年出版》を始めとするおびただしい数の世俗歌曲、マドリガーレ、宗教曲(マニフィカート、モテット、ミサ曲)の発表によって音楽家として周囲に認められていた。1584年からはHechingenの宮廷楽長の職に就くが、彼がルター派の作曲家であったために反改革を推し進める領主Eitel-Friedrich I世との関係が悪化し、わずか一年後にそこを去ってWürttemberg公Wilhelmの庇護を求め、まずテノール歌手として雇われ、1589年に宮廷作曲家に、1594年には宮廷楽長に任命された。

この受難曲は1593年楽長就任の前年に受難週のために作曲されたもので、「ラテン語の古い教会コラールによって四声で作曲された」という但し書きが付いている。

この曲は、16世紀のヨーロッパの傾向として見られる特徴をそなえていて、15世紀頃まで流行した単純な歌とポリフォニックな曲を交互に展開させる受難曲を改めて、ヨハネによる福音書のテキストすべてをモテットのようにポリフォニックな作りになっている。そのため、聖書朗読と合唱による人間の声とアリアの告白とコラールが織り成すバッハの受難曲のような複雑な構成は見られない。聖書の朗読をポリフォニーで肉付けするのである。幾分パート別に役割を与えながら、テキストの言葉を劇的にダイナミックに伝える工夫がなされている。

レヒナーは宗教曲のほかに世俗歌曲やマドリガルをたくさん遺していて、日本ではむしろその分野の作曲家として知られる。その本領がこの曲でも発揮されていて、人文主義の時代を反映してテキストの音楽表現を人間的に描き出そうとする傾向が見られる。

第一部は福音書の第18章1-8、10-13、19-24のイエスの逮捕からハンナスの尋問を受けるまでの部分である。大祭司の義父ハンナス(新共同訳はアンナス)がイエスを尋問する部分は、新約聖書では表記の混乱が有って「大祭司」が尋問したと記されているが、受難曲のテキストはハンナスに修正されている。

テノールの冒頭で歌う旋律が、本来福音史家(Evangelist)が歌う聖書朗読のモチーフである。しかし、この曲は必ずしも専らテノールに福音史家の役割を委ねようとしなない。そのモチーフを歌うパートが福音史家の役割を代表するのである。作曲者はすぐれたテノール歌手であったので、テノールの使い方には非常に特徴があり、高音域を十分に利用して、語られるテキストの感情の高まりを激しく、際立つように表現する工夫が施されている。この第一部でも、イエスを逮捕しようとする人々とともにゲッセマネの園に現れたユダの裏切りの行動や動機を語る部分、逮捕する瞬間のイエスの質問に答えて人々の叫ぶ部分、ハンナスの尋問中下役がイエスに平手打ちをくわせる部分の語りや会話などはテノールの高音が効果的に使われている。バスは中世以来の受難曲がそうしたように、イエスが語るせりふの独唱的表現とその朗読的基礎を担う。ソプラノとアルトは対位法を駆使してポリフォニーの調和と美しさを支える役割に徹している。

第二部は福音書の第18章25、28-30、33、36-40(一部省略)の弟子のペトロが巻き添えを恐れてイエスを知らないか否か部分とイエスがローマの総督ピラトの尋問を受ける部分である。ペトロが三度イエスの仲間であることを否定したあと、主の予言が的中した自分の弱さに激しく泣く部分はマタイによる福音書第26章74-75の記述を挿入している。

ペトロと人々の対話では、人々の語る言葉はテノールが朗読を受け持つが、ペトロの言葉の部分は朗読をソプラノに任せて、そのテノールが彼の慌てた興奮やそのとき鶏が鳴いた衝撃を激しく歌い、次の復唱で再び朗読のモチーフを受け持つという展開を見せる。

イエスと尋問するピラトとの会話では、上二声乃至三声がピラト、バスまたは下二声がイエスの言行を語る。特に、バスの語り方はバッハにも影響を与えているようである。ここでは朗読のモチーフも部分的に現れる。ピラトが《Ich finde keine Schuld an ihm;》「私はこの男に何の罪も見出さない」という部分以下は、朗読のモチーフをアルトに譲って、バスがピラトの生々しい声を受け持ち、群衆の声は上三声が受け持つという構成になっている。

第三部は福音書の第19章1-5と15-18で、ピラトがイエスを鞭打たせたあと、祭司長たちに引渡し、彼等が「されこうべの場所」と呼ばれるところへ十字架を負わせて連行する部分である。この部分では、イエスが鞭打たれる部分、いばらの冠を彼の頭にいたただかせる部分、人々が「十字架につける」と叫ぶ部分、ピラトがイエスを群衆に示す部分が特にリアルに表現される。

《Weg,weg,weg!》「うせろ、うせろ、うせろ!」は聖書にはない。印象的なのは、ピラトがイエスを「お前たちの王」と言ったのに対して、祭司長たちが「私たちには国王は居りません。」と言う部分が、大きく表現されている点である。キリストの王権を否定した彼等の発言の重大さを強調するのである。イエスが十字架を運ぶ説明部分では、付点二部音符と四分音符による重い十字架を引きずる表現が施されていて、これはバッハも用いた手法であった。

第四部は福音書の第19章19-20のピラトが罪状書きを書いて十字架に掛ける部分である。

レヒナーがこの部分だけを一章として取り扱っていることは注目に値する。福音書はその罪状書きが「ユダヤ人の王」とあるので、祭司長たちが「この男は『ユダヤ人の王』と自称した」と書き改めるようにピラトに要請したという部分が続くが、レヒナーはマタイによる福音書第27章39-40を用いて、罪状書きを見て首を振り振り、「神の子なら十字架から降りて来い」とイエスを侮辱する人々の言動の醜悪さを大きく描こうとする。この部分の群衆の声の主演はソプラノとテノールで、前者はどちらかと言えば朗読を、後者は生々しい人間の声を受け持つ。

第五部は福音書の第19章26-30の十字架上の息を引き取れるまでのイエスを描くが、レヒナーは十字架上のイエスが言われた七つの言葉を完備したテキストを作るために、ルカによる福音書第23章34の「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」と、同章42-43の共に十字架にかけられた犯罪人の一人に言われた「まことに、まことにあなたに言って置く。今日、あなたは樂園で私のそばに居るであろう。」と、マタイによる福音書第27章46の「エリ、ラマ、アサブターニ? (新共同訳「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」)」と、ルカによる福音書第23章46の「父よ、あなたの御手に私の霊をゆだねます。」を挿入した。

これらの言葉は、バスがイエスの言葉を表現する主演になっている。このうちアラム語でイエスが言われる言葉の意味の説明部分は上三声で行われる。また、イエスをご自分の愛して来られた弟子(ヨハネ)を母マリアに紹介する部分は、主演をテノールに振り当てている。

結尾には《Der Du für uns gelitten hast, erbarme Dich unser, o Jesu!》「そのあなたこそ私たちのために苦しみを受けられたのです。私たちをお憐れみください、おお、イエスさま!」という言葉が付く。ここに語られる受難物語は、私たちの罪のためにキリストが苦しみを受けられたのだという啓示として受け取って欲しいというメッセージを託した祈りなのである。



エルサレム オリーブ山

歌詞対訳

CHORBUCH LEONHARD LECHNER - Mein süße Freud auf Erden -
レオンハルト・レヒナー合唱曲集 《地上の我が甘き喜び》 より

水野 克彦

1. Christ ist erstanden

Christ ist erstanden von der Marter alle,
des sollen wir alle froh sein,
Christ soll unser Trost sein.
Alleluia.

キリストは責め苦のすべてから復活なさいました、
私たちは皆、それを喜ぶべきです、
キリストは私たちの慰めでいらっしゃるからです。
アレルヤ。

2. Christ, der du bist der helle Tag

Prima pars

Christ, der du bist der helle Tag,
vor dir die Nacht nicht bleiben mag,
du leuchtest uns vom Vater her
und bist des Lichts ein Prediger.

第一部

キリストよ、明るい昼間であるあなたよ、
あなたの前で夜は留まるのを好まない、
あなたは御父のところから私たちのためにあかりを照らされる。
あなたは光の説教者です。

Secunda pars

Ach lieber Herr, behüt uns heint
in dieser Nacht vorm bösen Feind,
und lass uns in dir ruhen fein,
dass wir vorm Satan sicher sein.

第二部

ああ愛する主よ、私たちが今夜お護りください、
今夜、邪悪な敵を前にして。
そして私たちがあなたの中で静かに憩わせてください、
私たちがサタンを前にしても安全なように。

Tertia pars

Obschon die Augen schlafen ein,
so lass das Herz doch wachend sein,
halt über uns dein rechte Hand,
dass wir nicht falln in Sünd noch Schand.

第三部

まなこは閉じて寝入るけれども、
しかしそれでも心は目醒めているようにさせてください。
私たちの上にあなたの右手をかざしてください、
私たちが罪に陥って恥晒しにまでならないように。

Quarta pars

Wir bitten dich, Herr Jesu Christ,
behüt uns vor des Teufels List,
der stets nach unser Seelen tracht',
dass er an uns hab keine Macht.

第四部

私たちはあなたに願います、主なるイエス・キリストよ、
私たちが悪魔の策略から護ってください。
悪魔はいつも私たちの魂を狙っています、
悪魔が私たちに何の力も持たないようにしてください。

Quinta pars

Sind wir doch dein ererbtes Gut,
erworben durch dein teures Blut;
dies war des ewign Vaters Rat,
als er uns dir geschenkt hat.

第五部

しかし何しろ私たちはあなたの相続財産であり、
あなたの貴い血によって獲得されたものなのです。
これが永遠なる御父の教えでした、
御父があなたに私たちが贈られたときの。

Sexta pars

Befiehl dein Engel, dass er komm
und uns bewach, dein Eigentum,
gib uns die lieben Wächter zu,
dass wir vorm Satan haben Ruh.

第六部

あなたの天使に命じてください、来て
あなたの所有物である私たちに警護するようにと。
私たちに親愛なる守り手を与えてください、
私たちがサタンの前でも平穩であるために。

Septima pars

So schlafen wir im Namen dein,
dieweil die Engel bei uns sein;
du heilige Dreifaltigkeit,
wir loben dich in Ewigkeit.

第七部

そうすれば私たちはあなたの御名において眠り、
その間、天使たちが私たちがかわらにいてくれます。
あなた、聖なる三位一体、
私たちはあなたを永遠に誉めたたえます。

3. Dieweil Gott ist mein Zuversicht

1 Dieweil Gott ist mein Zuversicht,
was in der ganzen Welt geschicht,
ist mir nicht angelegen;

1 神が我が確信なので、
世界中で起こることを、
私は気にかけていません。

was er in seinem Wort verspricht,
nach dem mein Herz sich stetig richt',
ich wart auf seinen Segen.

2 Mein Zuversicht auf Gott ich setz,
in seinem Wort ich mich ergötz,
mir mag nichts Liebers werden;
er kann zerreißen alle Netz,
auf dass ich mich gar nit verletz,
dieweil ich leb auf Erden.

3 Gott ist und bleibt mein Zuversicht,
ich acht nit, was ein jeder dicht',
so lang ich hab das Leben;
seh ich damit mein B'ruf verricht',
das Zeitlich mich nit sehr anficht,
Gott wöll das ewig geben.

4. Wenn wir in höchsten Nöten sein

Prima pars

Wenn wir in höchsten Nöten sein
und wissen nicht, wo aus noch ein,
und finden weder Hilf noch Rat,
ob wir gleich sorgen früh und spat,

Secunda pars

so ist das unser Trost allein,
dass wir zusammen insgemein
zu dir rufen, o treuer Gott,
um Rettung aus der Angst und Not.

5. Allein zu dir, Herr Jesu Christ

Der erste Teil

Allein zu dir, Herr Jesu Christ,
der du allzeit mein Hoffnung bist,
du wirst mir ja gewähren mein herzlich Bitt,
auf dass ich nit verzag auf dieser Erden;
dein teures Blut, das hohe Gut,
kein Trost kann mir sonst werden.
Durch deinen Tod hilf mir aus Not
und stärk mir meinen Glauben,
lass mich auch nicht den Böswicht
des höchsten Schatz berauben.

Der ander Teil

Wann kommen wird mein letzte Stund,
lass mich, o Herr, mit meinem Mund
in einem rechten Sitten
von ganzem Herzen bitten
und lass auch mich geduldiglich
in deinem Fried entschlafen;
du wöllst auch bei mir schaffen,
auf dass ich mög durch deinen Sieg
am Jüngsten Tag erstehen
und in dein Reich eingehen
zu dem ewigen Leben,
das wöllst du, Herr, uns allen geben.

彼がその言葉で約束なさること、
それに私の心は変わることなく従い、
私は彼の祝福を待ちます。

2 私は我が確信を神に置き、
神の御言葉の内に私は楽しむので、
私にとってもっと心を寄せたいと思うものは何もありません。
神はすべての罫を引き裂くことがおできになります、
私がつまなく傷つかないようにするために。
私が地上に生きる間はそうしてくださいませ。

3 神は我が確信であり、またそうあり続けられます。
私は他人が考えだす事は重んじません、
それゆえ私は生命を永らえています。
それによって私は自分の使命が果たされるのを知るので、
現世のことは私をまったく不安にさせません。
神は永遠に生命を与えようとなさいませ。

第一部

私たちが苦しみ極みにあるとき、
そして内でも外でも途方に暮れ、
助けも助言さえも見つからないとき、
たとえ私たちが朝に夕に心配したとしても、…そんなとき。

第二部

そんなとき私たちの唯一の慰めなのは、
私たちが一緒に集まって
あなたに呼ばれることです、おお誠実な神様、
恐れと苦しみからの助けを求めて呼ばわれます。

第一部

ただあなたのみが、主イエス・キリストよ、
あなたがいつも私の希望です。
そう、あなたは私の心からの懇願を聞き入れて下さるでしょう、
私がこの世で意気消沈しないようにと。
あなたの貴い血、高貴な財宝、
それ以外は私には何の慰めにもなりえません。
あなたの死によって私を悩みから助けてください、
そして私の信仰を強めてください、
また悪人が私から
至高の宝を奪わないようにさせてください。

第二部

私の最期の時が来るとき、
私に、おお主よ、私の口によって
正しい振る舞いをしながら
心の底から願わせてください、
そしてまた寛容の御心によって私を
あなたの平安の内に永眠させてください。
またあなたは私のところで働こうとなさいませ。
私あなたの勝利によって
最後の審判の日に復活し、
そしてあなたの御国に入って
永遠の生命を得るようになってほしいがゆえに。
あなたは、主よ、永遠の生命を私たち皆に与えようとなさるのです。

Historia der Passion und Leidens unsers einigen Erlösers und Seligmachers Jesu Christi

「私たちのいく人かの救い主であり、至福を与えて下さる方イエス・キリストの御受難とお苦しみの物語」

nach dem alten lateinischen Kirchenchoral mit vier Stimmen componiert

【古いラテン語の教会聖歌に基づいて4声で作曲された】

野口 碩

Erster Teil

Das Leiden unsers Herren Jesu Christi
aus dem Evangelisten Johanne.
Da Jesus solches geredt hatt,
ging er hinaus mit seinen Jüngern
über den Bach Kidron;
Da war ein Garten,
in den ging Jesus mit seinen Jüngern.
Judas aber, der ihn verriet, wußte den Ort auch,
denn Jesus versammelt sich oft daselbst
mit seinen Jüngern.
Da nun Judas zu sich hatte genommen die Schar
und der Hohenpriester und Pharisäer Diener,
kommt er dahin mit Fakkeln, Lampen und mit Waffen.
Als nun Jesus wußte alles, was ihm begegnen sollte,
ging er hinaus und sprach zu ihnen:
„Wen suchet ihr?“
Sie antwortten ihm:
„Jesum von Nazareth.“
Jesus spricht zu ihnen:
„Ich bins,“
Judas aber, der ihn verriet, stund auch bei ihnen.
Als nun Jesus zu ihnen sprach: „Ich bins,“
wichen sie zurück und fielen zu Boden.
Da fraget er sie abermals:
„Wen suchet ihr?“
Sie aber sprachen: „Jesum von Nazareth.“
Jesus antwortet:
„Ich habs euch gesagt, daß ichs sei;
suchet ihr denn mich, so lasset diese gehn.“
Da hatte Simon Petrus ein Schwert
und zog es aus
und schlug nach des Hohenpriesters Knechte
und hieb ihm sein recht Ohr ab.

第一部

私たちの主イエス・キリストのお苦しきは、
『ヨハネによる福音書』によるところである。
イエスはこのような事を話されてから、
御弟子たちと出て、
キドロンキドロンの溪流溪流の向こうへ行かれた。
そこには園園があつて、
イエスは御弟子たちとそこに入って行かれた。
しかし、イエスを裏切つたユダも、その場所を知っていた。
と言うのは、イエスは同じ場所に時々
御弟子たちと集まれるからである。
折しも、はたしてユダは大勢の群衆と
大祭司とファリサイ派の下役を味方に引入れ、
たいまつ、ランプ、武器などを持ってその園に入って来る。
イエスは彼に出遭う事を何もかも知っておられたので、
出て行かれて、彼らにこう話しかけられた。
「あなたがたはだれを捜しているのか。」
彼等はイエスに答えた。
「ナザレのイエスをだ。」
イエスは彼等にこう言われる、
「わたしである。」
ところが、イエスを裏切つたユダも、彼等に加わつて居た。
はたしてイエスが「わたしである。」と言われたので、
彼等は後ずさりして地に倒れた。
そこで、イエスは彼等に再びお尋ねになった。
「あなたがたはだれを捜しているのか。」
彼等はなおも、「ナザレのイエスをだ」と言った。
イエスはお答えになった。
「私はお前たちに『私である』と言つたではないか。
お前たちは私を捜しているのだから。それならこの人々を去らせなさい。」
このとき、シモン・ペトロは剣を持っていたので、
それを抜き放ち、
大祭司の雇い人に向かつて切りつけ、
彼の右の耳を切り落とした。

Da sprach Jesus zu Petro:
„Steck dein Schwert in die Scheide!
Soll ich den Kelch nicht trinken, den mir mein Vater gegeben hat?“
Die Diener aber bunden ihn
und führten ihn aufs erste zu Hannas.
Der fraget Jesum um seine Jünger
und um sein Lehre.
Jesus antwortet ihm:
„Ich habe frei öffentlich geredt vor der Welt,
ich hab allzeit gelehrt in der Schul und im Tempel;
frag die, so es gehöret haben!“
Ein Diener aber, so dabei stund,
gabe Jesu einen Bakkenstreich und sprach:
„Sollst du dem Hohenpriester also antworten?“
Jesus antwortet:
„Hab ich übel geredt, so beweise es, daß' böse sei;
hab ich aber recht geredt, warum schlägst du mich?“
Und Hannas sandte ihn gebunden
zu dem Hohenpriester Kaiphas.

Zweiter Teil

Simon Petrus aber stund und wärmet sich;
da sprachen sie zu ihm:
„Bist du nicht seiner Jünger einer?“
Er verleugnet aber und sprach:
„Ich bins nicht, Ich bins nicht.“
Und alsobalde krähet der Hahn.
Und Petrus gedacht der Wort Jesu
und ging hinaus und weinet bitterlich.
Jesum aber führten sie von Kaiphas
in das Richthaus.
Da ging Pilatus zu ihnen heraus und sprach:
„Was bringet ihr für ein Klage über diesen Menschen?“
Sie antwortten und sprachen:
„Wäre dieser nicht ein Übeltäter,
wir hätten dir ihn nicht überantwortet.“
Da rief Pilatus Jesu und sprach zu ihm:
„Bist du der Juden König?“

そのとき、イエスはペトロに話しかけられた。
「あなたの剣を鞘に納めなさい!
私の父が私にお与えになった杯は、飲むべきではないのか。」
然るに、下役どもは彼を縛り、
そのあとで先ず、ハンナスのところに連れて行った。
ハンナスはイエスに彼の弟子のことや
その教えについて尋問した。
イエスは彼にお答えになった。
「私は世に向かって公然と話して来た。
シナゴグでも神殿でも教えて来た。
もしそれを聞いたことがあるのなら、その人々に尋ねてみるがよい!」
しかし、一人の下役が、傍に立っていたので、
イエスに平手打ちを一発くわせ、こう口を利いた。
「おまえは、大祭司様にそんな答え方をするのか?」
イエスはお答えになった。
「私が悪い事を話したのなら、私が悪いと言う事を証明しなさい。
しかし、私が正しい事を話したのなら、なぜ私をひっぱたくのか。」
それから、ハンナスは彼を縛ったまま
大祭司カイアファのもとに送った。

第二部

しかるに、シモン・ペトロは立ったまま、暖を取っていた。
すると、人々が彼に向かって話しかけた。
「おまえは彼の弟子の一人ではないのか。」
しかし、彼は否定してこう口走った。
「違いますよ、違いますよ。」
するとすぐに、雄鶏が鳴いた。
そしてペトロはイエスの言葉を想い出し
出て行って、はげしく泣いた。
さて、人々はイエスをカイアファのところから
裁判所に連れて行った。
そのとき、ピラトは彼らのところに出て来て、こう言った。
「おまえたちはこの男についてどんな訴えを持ち込んだのか。」
彼らはこう答えて申し立てた。
「この男が犯罪者でなかったら、
私どもはあなたに引き渡すようなことはしなかったでしょう。」
そこで、ピラトはイエスを呼んで、こう彼に向かって語りかけた。
「おまえはユダヤ人の王なのか。」

Jesus antwortet:

„Mein Reich ist nicht von dieser Welt.“

Da sprach Pilatus:

„So bist du dennoch ein König?“

Jesus antwortet:

„Du sagsts,

Ich bin dazu geboren und in die Welt kommen,

daß ich die Wahrheit zeugen soll;

wer aus der Wahrheit ist,

der höret meine Stimme.“

Spricht Pilatus zu ihm:

„Was ist Wahrheit?“

Und ging wieder hinaus zu den Juden

und sprach zu ihnen:

„Ich finde keine Schuld an ihm;

wollt ihr nun,

daß ich euch der Juden König losgebe?“

Sie schriean all:

„Nicht diesen, sondern Barrabam!“

Dritter Teil

Da nahm Pilatus Jesum und geißelt ihn,

und die Krieger-knecht flochten eine Krone von Dornen

und setzten sie ihm auf sein Haupt

und legten ihm ein Purpurkleid an und sprachen:

„Sei gegrüßt, lieber Judenkönig!“

und gaben ihm Bakkenstreich.

Da führet ihn Pilatus heraus und sprach zu den Juden:

„Sehet, welch ein Mensch!“

Sie aber schriean:

„Weg, weg, weg!

Kreuzige, kreuzige, kreuzige ihn!“

Da sprach Pilatus:

„Soll ich euren König kreuzigen?“

Die Hohenpriester antworteten:

„Wir haben keinen König, allein den Kaiser!“

Da überantwortet er ihn, daß er gekreuzigt würde.

Sie nahmen aber Jesum und führeten ihn hin,

und er trug sein Kreuz und ging hinaus zu der Stätte,

welche heißet Schädelstatt.

Da kreuzigten sie ihn

und mit ihm zween andere zu beiden Seiten,

Jesum aber mitten inne.

イエスはお答えになった。

「私の王国はこの世のものではない。」

すると、ピラトが語りかけた。

「では、おまえはやはり王なのか。」

イエスはお答えになった。

「あなたがそう言っているではないか。

私はそのために生まれ、この世に来たのだ。

それは、真理を証しするためである。

真理から出た者は、

私の声を聞く。」

ピラトはこう彼に語りかける。

「真理とは何か。」

そして、ふたたびユダヤ人たちのところに出て行って、

こう彼らに述べた。

「私はこの男に何の罪も見出さない。

さあ、お前たちは、

私がおまえたちにユダヤ人の王なる者を釈放してやることを望むのか。」

彼らは皆叫んだ。

「その男ではなく、バラバを！」

第三部

そこで、ピラトはイエスを捕らえ、彼を鞭で打ち、

兵卒たちがいばらで冠を編んで、

それを彼の頭に載せて、

紫衣を身に着けさせ、こう言った。

「よう、ユダヤの王さま君！」

そして、彼に平手打ちを食わせた。

そのとき、ピラトは彼を連れ出し、ユダヤ人たちにこう言った。

「見よ、なんといい男ではないか！」

彼らはそれでも叫んだ。

「消えろ、消えろ、消えろ！」

十字架につけろ！十字架につけろ！十字架につけろ！」

すると、ピラトがこう語った。

「私は、お前たちの王を十字架につけなければならないのか？」

大祭司はこう答えた。

「私たちには国王は居りません。皇帝陛下だけです！」

そこで、ピラトはイエスを引き渡して、彼が十字架にかけられるにまかせた。

ところが、彼らはイエスを受け取ると彼を連行し、

イエスがご自分の十字架をお運びになって、

されこうべの場所と名づけられた処へ出て行った。

そこで、彼らはイエスを十字架につけ、

両側にほかの二人を彼と一緒につけた。

但し、イエスを中心に。

Vierter Teil

Pilatus aber schrieb ein Überschrift
und heftet sie auf das Kreuz,
und war geschrieben hebräisch,griechisch
und lateinisch:
„Jesus von Nazareth,der Juden König.“
Die aber vorüber gingen,lästerten ihn
und schütteln ihre Häupter
und sprachen:
„Pfui dich,wie fein brichst du den Tempel
und bauest ihn in dreien Tagen;
hilf dir selbst!
Bist du Gottes Sohn,
so steig herab vom Kreuze!“

Fünfter Teil

Jesus aber betet und sprach:
„Vater,vergibe ihnen,denn sie wissen nicht,
was sie tun.“
Und als er seine Mutter sahe
und den Jünger dabei stehn, den er lieb hatt,
spricht er zu seiner Mutter:
„Weib,siehe,das ist dein Sohn!“
Danach sprach er zu dem Jünger:
„Siehe,das ist deine Mutter.“
Der Übeltäter aber einer,so zu seiner Rechten hänget,
sprach zu ihm:
„Herr,gedenk an mich,wann du in dein Reich kommest!“
Und Jesus sprach zu ihm:
„Wahrlich,wahrlich sag ich dir,
heut wirst du bei mir sein im Paradiese.“
Daß aber die Schrift erfüllet würde,sprach er:
„Mich dürstet.“
Sie aber reichten ihm Essig in einem Schwamm.
Und Jesus schrie laut und sprach:
„Eli,Eli,lama asabthani?“
Das ist: „Mein Gott,mein Gott,
warum hast Du mich verlassen?“
Und wiederum sprach er:
„Es ist vollbracht.“
Und abermal rief er laut:
„Vater,in deine Hände befehl ich meinen Geist!“
und neigete das Haupt und verschied.

Der Du für uns gelitten hast,
erbarme Dich unser, o Jesu!

第四部

ところが、ピラトは一枚の見出し(罪状書き)を書いて、
それを十字架上に留めた。
そして、それはヘブライ語とギリシャ語と
ラテン語で次のように書かれてあった。
「ナザレのイエス、ユダヤ人の王。」
ところが、そこを通りかかった人々は、彼を冒瀆して、
その頭を振り振り、
こう話しかけた。
「この畜生め、お前が神殿をみごと打ち壊して
三日で建てるといふなら、
自分を救って見ろ!
お前は神の子なんだろう、
だったら、十字架から降りて来い!」

第五部

イエスはそれでも祈って、こう口にされた。
「父よ、彼らをお赦しください、
彼らは自分が何をしているのか知らないのです。」
そして、御自分の母が目に入り、
御自分が愛して来られた弟子が傍に立っているのを御覧になると、
御母に話しかけられた。
「婦人よ、ご覧なさい、この人はあなたの息子ですよ!」
次に弟子に向かって、話しかけられた。
「ご覧なさい、その人はあなたのお母さんです。」
ところが、彼の右に架かっていた一方の犯罪人が、
彼に向かって話しかけた。
「主よ、あなたが御国においでになるときは、私の事を思い出してください!」
すると、イエスは彼に向かってこう話された。
「まことに、まことにあなたに言っておく。
今日、あなたは樂園で私のそばに居るであろう。」
だが、(聖書に書かれた)御言葉が成就して、
彼は「私はのどが渇いた」と口走られた。
しかるに、彼らは海綿に酢を浸して彼に差し出した。
すると、イエスは大きく叫んで、こう口走った。
「エリ、エリ、ラマ、アサブターニ?」
これはすなわち「我が神、我が神、
どうしてあなたは、私をお見捨てになるのですか。」という意味である。
そして、さらにもう一度こう口にされた、
「成し遂げられた」と。
だが、またしてもこう大声で呼ばれた。
「父よ、あなたの御手に私の霊をゆだねます!」
そして、頭を垂れて、この世を去られた。

そのあなたが私たちのために苦しみを受けられたのです。
私たちをお憐れみください、おお、イエスさま!

公演記録

	開催年月	主な演奏曲目・作曲家	指揮	会場
第1回	1981.02	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	寺村博司	石橋メモリアル
第2回	1981.11	ヘンデル(メサイア)	渡辺央己	中央会館
第3回	1982.11	フォーレ(レクイエム)、ジョスカン・デ・プレ、シュッツ	鈴木 優	東京カテドラル
第4回	1983.09	モーツァルト(戴冠式ミサ)、ヴィクトリア	黒岩英臣	東京カテドラル
第5回	1984.09	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	黒岩英臣	東京カテドラル
第6回	1985.10	J.S.バッハ(カンタータ106)、ブクステフーデ、ハスラー	宮本昭嘉	石橋メモリアル
第7回	1986.10	モーツァルト(グローセミサ)、ヴィクトリア	鈴木 優	練馬文化センター
第8回	1987.10	シュッツ(ムジカリッシェ・エクゼクイエン)、ハスラー(ミサ・セクンダ)	鈴木 優	石橋メモリアル
第9回	1988.12	モーツァルト(ヴェスペレ339)、J.ハイドン	齋藤明生	駒場エミナース
第10回	1989.11	モーツァルト(レクイエム<バイヤー版>)	齋藤明生	練馬文化センター
春の小演奏会	1990.05	ジョスカン・デ・プレ(パンジェ・リングワ)、ハスラー	齋藤明生	石橋メモリアル
第11回	1991.02	モーツァルト(リタニア243)、J.M.ハイドン(ヴェスペレ)	齋藤明生	石橋メモリアル
第12回	1991.11	モーツァルト(ドミニクス・ミサ、サンクタ・マリア・マーテル・デイ)	齋藤明生	川口リリアホール
第13回	1992.11	シャルバンティエ(真夜中のミサ)、シュッツ、ブクステフーデ	齋藤明生	石橋メモリアル
第14回	1993.11	モーツァルト(ミサ・プレヴィス275)、アルブレヒツベルガー	齋藤明生	石橋メモリアル
15周年記念	1994.11	モーツァルト(レクイエム<ドルース版>)渋谷混声と合同	齋藤明生	新宿文化センター
第15回	1995.10	J.S.バッハ(カンタータ182)、ブクステフーデ	齋藤明生	石橋メモリアル
第16回	1996.11	モーツァルト(ヴェスペレ339)、アルブレヒツベルガー	齋藤明生	石橋メモリアル
第17回	1997.10	モーツァルト(ミサ・ソレムニス337、テデウム・ラウドムス)	齋藤明生	石橋メモリアル
第18回	1998.10	J.S.バッハ(カンタータ61・196)、D.スカルラッティ	齋藤明生	石橋メモリアル
第19回	1999.10	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、J.M.ハイドン、ブルックナー	齋藤明生	石橋メモリアル
齋藤先生追悼	2000.07	ハスラー、メンデルスゾーン、ホミリウス	水野克彦	同仁キリスト教会
クリスマス	2000.12	四つのアヴェマリア(アルカデルト、ジョスカン・デ・プレ、ヴィクトリア、パレストリーナ)	水野克彦	旧上野演奏堂
第20回	2001.11	モーツァルト(トリニターティス・ミサ)、J.ハイドン	水野克彦	石橋メモリアル
第21回	2002.10	ドイツ・バロック(J.C.F.バッハ、シュッツ、ブクステフーデ)	水野克彦	所沢文化センター
第22回	2003.11	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、アルブレヒツベルガー	水野克彦	ルーテル市谷センター
第23回	2004.10	D.スカルラッティ、パレストリーナ、モンテヴェルディ	水野克彦	カトリック麻布教会
第24回	2005.11	シュッツ、テレマン、ブクステフーデ(カンタータ)	水野克彦	カトリック麻布教会
第25回	2006.11	レヒナー(ヨハネ受難曲)、ゼレンカ(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第26回	2007.10	ブクステフーデ(カンタータ6曲)	水野克彦	カトリック麻布教会
第27回	2008.11	5人のヨーハン(J.S.バッハとその親戚4人)	水野克彦	カトリック麻布教会
第28回	2009.10	メンデルスゾーン、J.ハイドン(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第29回	2010.11	シュッツ、シャイン、シャイト、ブクステフーデ、ブルーンス	水野克彦	同仁キリスト教会
第30回	2011.10	歴代「トーマス・カントル」バッハ以外の名曲集	水野克彦	日暮里サニーホール
第31回	2012.10	シュッツ、ブクステフーデ(メンブラ・イエズ・ノストリ)	水野克彦	同仁キリスト教会
第32回	2013.12	16~17世紀のクリスマスと新年の名曲	水野克彦	同仁キリスト教会
第33回	2014.11	シュッツ(ムジカリッシェ・エクゼクイエンほか)	水野克彦	同仁キリスト教会
第34回	2015.11	トーマスカントル(カルヴィジウス、シャイン、T.ミヒヤエル、J.S.バッハ)	水野克彦	同仁キリスト教会
第35回	2016.11	シュッツ、ブクステフーデ	水野克彦	同仁キリスト教会
第36回	2017.10	ドイツバロック(ローゼンミュラー・パッヘルベル・ブルーンス等)	水野克彦	同仁キリスト教会
第37回	2018.10	18世紀オーストリアの教会音楽	水野克彦	同仁キリスト教会
第38回	2019.10	テレマン、ブクステフーデ	水野克彦	同仁キリスト教会
第39回	2021.10	J.S.バッハと息子たち(C.P.E.バッハ、J.C.F.バッハ)	水野克彦	同仁キリスト教会

ご案内

次回演奏会のご案内

東京アマデウス合唱団 第41回定期演奏会

日時：2023年10月8日(日) 夕刻開演予定

会場：同仁キリスト教会礼拝堂

演奏曲目：ハインリヒ・シュッツ(1585-1672)

『小宗教コンチェルト集 第2集』より

ディーテリヒ・ブクステフーデ(1637-1707)

カンタータ(BuxWV4) ほか

合唱団員募集

当団では、少人数に適したルネサンスやバロック時代の宗教曲を積極的に取り上げて、他の合唱団ではあまり歌うことの無い、隠れた名曲を歌っています。見学ご希望の方は事務局までご連絡ください。

合唱団ホームページ <http://t-amadeus.music.coocan.jp> 『団員募集』タブより専用フォームにて送信
または tamadeus.chorus.query@gmail.com へメールをお願いします。



練習日 毎週水曜日 午後6時30分～9時
練習場所 同仁キリスト教会美登里幼稚園2F
指導者 水野克彦
会費 月額 5千円(学生半額)
入会金 1千円
このほか、楽譜代・演奏会参加費

【練習場所への交通案内】

- ・東京メトロ有楽町線護国寺駅6番出口より 徒歩6分
- ・JR目白駅から都バス「新宿西口行き」
目白台三丁目下車 徒歩3分



Tokyo Amadeus Chorus

Since 1980